

資料の整理 (2)

そうたいどすう 相対度数

その階級の度数の合計に対する割合を**相対度数**という。
相対度数の合計は1になる。
相対度数を求めると、度数の合計が違う資料どうしを
比べやすくなる。

$$(\text{相対度数}) = \frac{(\text{その階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$$

階級	度数	相対度数
A	1	0.05
B	3	0.15
C	5	0.25
⋮	⋮	⋮
合計	20	1.00

← 各階級の度数を
度数の合計で
わった数

合計が1にならない場合でも1.00と書く。

度数分布表を使った^{へいきんち}平均値の求め方

度数分布表の1つの階級に入っている資料の値を、その階級の階級値とみなして、その
平均値を求めることができる。

$$(\text{平均値}) = \frac{(\text{階級値}) \times (\text{度数}) \text{の合計}}{(\text{度数の合計})}$$

【1】 次の表は、40人の生徒の体重をはかり、度数分布表に整理したものである。
次の問いに答えなさい。

体重(kg)	階級値(kg)	度数(人)	階級値×度数	相対度数
以上 未満 40 ~ 45	42.5	6	42.5×6=255	0.15
45 ~ 50	47.5	16	47.5×16=760	0.4
50 ~ 55	52.5	12	52.5×12=630	0.3
55 ~ 60	57.5	4	57.5×4=230	0.1
60 ~ 65	62.5	2	62.5×2=125	0.05
計		40	2000	1.00

- (1) 度数分布表を完成させなさい。
- (2) 度数分布表をもとに、生徒の体重の平均値を求めなさい。

$$\frac{\text{各階級の}(\text{階級値}) \times (\text{度数}) \text{の合計}}{(\text{度数の合計})} = \frac{2000}{40} = 50$$

答え 50kg

